JDD Network

11/8 発達障害シンポジウム2026

保護者による障がい特性の理解と受容はどのように進むのか



発達障害児者の支援がうまく進まない要因の一つとして、保護者が子どもの障がい特性を理解ができていないことがあげられます。保護者の受容が遅れ、不適切な対応が続くことが二次障害の誘発につながり、不適切な進路連択をする要因ともなるケースも多く、結果不略合が生じることが多く見受けられます。このように、複数の発達のステージにおいて保護者の理解がとても大切なのですが、うまく理解が進まないことが少なからずあるのが現実です。

シンポジウムにおいては、保護者の受容（理解）はどのように進むのか、その課程について様々な立場の方から話題を提供していただきます。それらを踏まえ、保護者の特性受容を促すには何が有効なのか、あるいは何が保護者理解を阻害しているのか？などについて議論します。

開催日時
令和８年
11月８日（日）
13時30分～16時
（13時開場）

開催場所
福井県立大学
永平寺キャンパス
L109講義室

参加費
無料
（事前登録優先制）

定員
100名
（先着順）

スケジュール

13:30～13:35	開会の挨拶および開催趣旨説明　清水 聡（JDDnet福井 代表、福井県立大学 名誉教授）
13:35～14:35	**話題提供（20分×3名）** ①「保護者自身の体験から」　牧野 里美（スクラム福井 ペアレントメンター） ②「診断の先へ～医療の役割～」　熊野 麻美（福井県こども療育センター 小児科医） ③「大学での就労支援を通して ～発達障害学生のセルフアドボケイトを育てるために～」 荒木 史代（福井工業大学 教授（基盤教育機構 学生生活支援室））
14:35～14:45	休憩
14:45～15:55	**パネルディスカッション** 「保護者による障がい特性の受容はどのように進むのか」 ファシリテーター　藤岡 撤（福井大学教育学部 准教授（特別支援教育）） パネラー　牧野 里美（ペアレントメンター） 熊野 麻美（福井県こども療育センター） 荒木 史代（福井工業大学）
15:55～16:00	総括・閉会挨拶　津田 明美（育ちのクリニック津田 小児科医、 福井県こども療育センター 前センター長）

主催　日本発達障害ネットワーク福井（JDDnet福井）
共催　NPO法人はるもにあ、福井県発達障害者支援センタースクラム福井
後援　福井水仙ロータリークラブ
問合せ　JDDnet福井 事務局（野中）050-6860-6750

申込フォーム
10/30〆切